令和８年度

幼稚園だより　７月号



「やってみよう」の積み重ねで育つこと　　園長　篠澤　恵理

自然豊かな園庭の環境を生かして木々の間を走る「千駄木サーキット」を年長児が繰り返し楽しんでいます。毎日のコースは、子どもたちが歩きながら決めて、地図にも書き込んでいます。その地図をなぞりながら、自分が走った経路を確かめて、またスタートラインに向かう姿もあります。クロスカントリーのように、起伏のある築山や木の根元、狭い木々の間を通るコースを選ぶこともあります。園庭の固定遊具も、コースの中に組み込むことにして、途中で登ったりぶら下がったりしています。分かれ道をつくり、好きなコースを選ぶ案も考えています。スタート地点で出会った友達や先生と競うように走ることもあります。毎回コースを考えるうちに、「もっとこうしたい」と思う気持ちを友達に伝えています。また、「こっちのコースも面白いかもしれない」など、次への見通しも生まれて、考えることが楽しくなる姿も見られます。

個人のカードを用意すると、終わる度にスタンプを押しては、何回走ったか数えています。いくつかスタンプがたまると２枚目になるので、たくさん取り組んだことを誇らし気に伝えに来ることもあります。また、ストップウォッチで速さを測り、自己新記録に挑む姿もあります。ゴールまでの時間は、平均１分ほどです。走る度に、自分が速く走れるようになっていることを実感して、さらに意欲が増しています。

遊び始めた当初は、この起伏に体の動きが付いていかずに転ぶこともありましたが、繰り返すうちに体幹も強くなり、手の振り方や足の運び方も格好良くなってきたと感じています。体力向上と共に根気強さも育っています。それぞれの楽しみ方を見付けて、「やってみよう」と心を動かしていることを嬉しく思います。このように子どもたちの遊びは、「こうしたい」と自分で決めることや、自分のやりたいことを叶えることなどの積み重ねによって、満足感や達成感が心に残り、自信につながっていくことが分かります。幼児期の遊びの中で、行動力、思考力、判断力、実行力などの芽生えが育まれていくことを踏まえて、豊かな学びにつながるように教育内容を計画し、子どもたちを支えていきたいと思います。

この夏、ご家庭でも、子どもが自分から「やってみよう」と思う場面で育つチャンスがあることを思いながら、様々な体験ができる機会があるととよいですね。親子で一緒に楽しめることを計画したり、家事の手伝いができるようにしてみたりすると、今必要な学びがたくさんあることと思います。子どもと過ごす夏、親子で「やってみたい」と思う日々を過ごせますように。



【年長組：千駄木サーキット】



【年中組：忍者ごっこ】



【年少組：鬼遊び】